

教育史		講義	教授 平沢 信康	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの教養選択科目、スポーツトレーナーコースの教養選択科目	科目ナンバリング	11220111	

1. 授業のねらい・概要

教育の理念や人間形成に関する思想のほとんどは、歴史の中にその源流を有するといつて過言ではない。本講義では教育について制度的な変遷を解説するほか、主要な民族・国家および我が国において形成された教育施設/機関を歴史の相の下に概観し、考察する。あわせて著名な教育家についても紹介する。

講義を通じて、市民としての教養を高め、広く豊かな歴史的な視野と想像力を獲得することをねらいとする。他方、教員採用試験の受験を希望する受講者にとっては、教職教養の一部として受験準備の学習ともなりえる内容である。

2. 授業の進め方

基本的に、講義内容を示した講義要旨（レジュメ）を配信し、レクチャー形式で進める。発話と文字資料による学びを、PowerPoint を活用して画像をスクリーン上に紹介する視覚情報をもって補う。

3. 授業計画

1. 古代世界における文明の発祥と教育 — オリент文明とギリシャ文明を中心に	9. 近世日本の学校 — 官学「昌平坂学問所」と藩校
2. 古代ギリシャの都市国家と古代ローマ（帝国）における教育	10. 江戸時代後期における民間の教育機関 — 郷校・私塾・寺子屋
3. 古代中国における教育思想と制度 — 六芸、孔子教団と儒家思想および科挙制度	11. 西洋近代の教育思想と制度 — 偉大な教育（思想）家を中心に
4. 古代日本の学校制度 — 律令国家体制における大学・国学と留学	12. 明治前期日本の教育—中央集権型の近代国民国家の成立と学校教育制度：啓蒙主義・欧化主義から復古主義へ
5. 平安時代の教育 — 公家の学習・教育を中心に	13. 近代日本における教育の発展 — 国家主義の確立・隆盛・崩壊
6. 鎌倉・室町時代の教育 — 武家の学習・教育を中心に	14. 20世紀における世界の教育改革運動
7. 中世社会と高等教育 — 西欧における「ユニヴェルシタス（大学）」の誕生を中心に	15. 第2次世界大戦後の日本の学制改革と「逆コース」および教育の量的拡大
8. 近世社会と教育 — ルネサンス・宗教改革・大航海時代	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

事前に講義要旨の pdf 版を配信するので、その該当ページを次回講義までにあらかじめ読んで予習（30分程度）しておくこと。また講義終了後、配信したレジュメの内容を復習（30分程度）する。予習復習を問わず、気になった人物や事項についてインターネット等で検索して確認し、学びを深めること。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学期末試験の終了後、特に注意を喚起すべき事項（多かった誤答など）について指摘した講評を履修者全員に対して Gメールで配信することでフィードバックする。

6. 授業における学修の到達目標

国内外の教育の歴史について理解を深め、以下について簡潔に説明できるようになることを目的とする。

- 1 有名な教育制度
- 2 高名な教育家たち
- 3 彼らが創始・主宰した教育施設・学校・学園・学舎（教育思想や教育方法を含めて）

7. 成績評価の方法・基準

学期末に実施する筆記試験の点をもって評価する。期末試験には十分復習をして臨んでほしい。

8. テキスト・参考文献

テキスト：自作レジュメ（講義要旨）

参考書：柴田義松・斉藤利彦編著『教育学ポイント・シリーズ 教育史』（学文社，2005年）

9. 受講上の留意事項

高校時代に日本史や世界史を学ぶことのなかった諸君も，臆することなく積極的に履修してほしい。

歴史の教養を高め，人文社会系の知的視野を広げたい人の履修を歓迎する。

とくに教員志望者には教員採用試験の受験準備としても聴講を推奨したい。教職教養を意識した受講は大歓迎である。

受講者は居眠りをしないように自らを戒めつつ，レジュメの内容とスクリーン上の情報の双方に注目してほしい。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。